

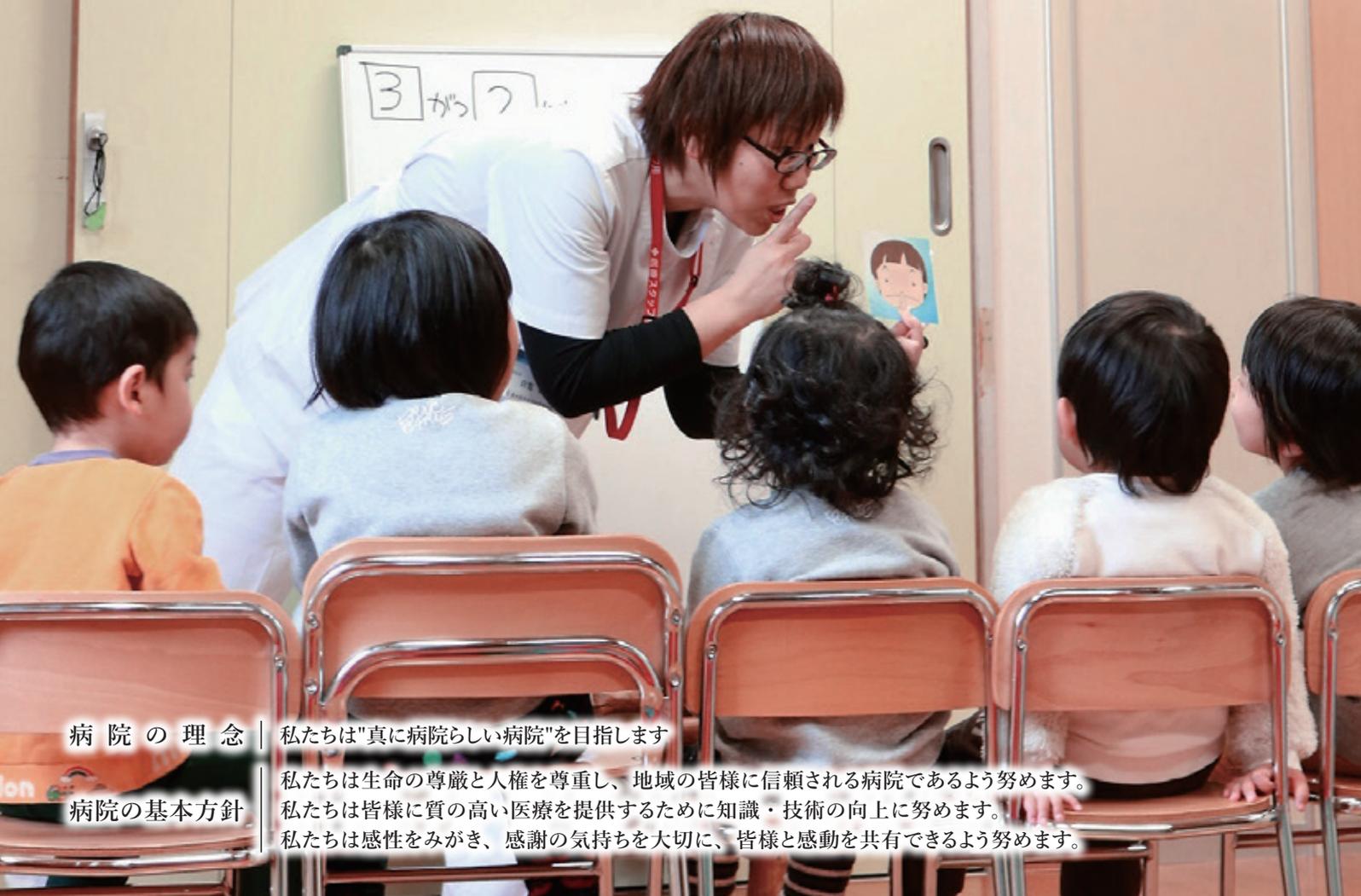


Harmony

特集

高い治療効果が期待できる、 内部障害や発達障害のリハビリテーション

- 1 ● 多職種連携で内部障害のリハビリを提供しています
ーリハビリテーション部ー
- 2 ● 医療の場で、子ども達の豊かなところとからだを育てます
ー小児療育センターー



病院の理念

私たちは"真に病院らしい病院"を目指します

病院の基本方針

私たちは生命の尊厳と人権を尊重し、地域の皆様に信頼される病院であるよう努めます。

私たちは皆様に質の高い医療を提供するために知識・技術の向上に努めます。

私たちは感性をみがき、感謝の気持ちを大切に、皆様と感動を共有できるよう努めます。

多職種連携で内部障害のリハビリを提供しています

—リハビリテーション部—

●リハビリテーション部の現状について

当院のリハビリテーション部は、理学療法士14名と作業療法士6名、言語聴覚士3名、健康運動士2名の合計25名のスタッフ構成で、入院と外来の患者さんにリハビリテーションを提供しています。

当院では、骨折後や脳卒中後の運動器・脳血管リハビリテーションに加えて、内部障害リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。内部障害リハビリテーションとは、「長期の安静・臥床などにより身体・精神活動の抑制が強いられる患者さんに対し、内部障害や運動機能障害が悪化しないよう積極的に運動を行い、フィットネスを維持向上することが目的」と日本リハビリ医学会が説明しています。ここでいう内部障害とは、呼吸器、循環器、泌尿器などの内臓の疾患による障害のことを示します。以下に当院での内部障害リハビリテーションの取り組みについてご紹介いたします。

●呼吸器リハビリテーション

近年、入院患者さんの高齢化により、誤嚥性肺炎や急性肺炎・肺気腫の患者さんが増加しています。呼吸器疾患の発症後、早期から離床・呼吸調整・有酸素運動を実施していくことで在宅復帰を支援し、重症な患者さんに対しては、排痰や呼吸介助を実施することで呼吸機能の向上を図っています。昨年5月より、多職種協同のチーム活動にも取り組んでおり、呼吸ケアサポートチームを病院で立ち上げています。人工呼吸器を使用している患者さんに対して多職種でカンファレンスを行い、患者さんへの良質な医療提供に向け活動しています。また、小児の人工呼吸器を使用されている患者さんに対する呼吸リハビリテーションの介入も行っており、幅広い呼吸器の患者さんに対するリハビリテーションの提供を図っています。現在3名の呼吸療法認定士が在籍しており、院内での呼吸リハビリテーションの普及や患者教育に力を入れています。今後も呼吸療法認定士の育成を行うことで、患者さんに質の高い呼吸リハビリテーションを提供していきます。

●がんリハビリテーション

当院では、基幹病院から食道がん・肝臓がん・胆嚢がん・膵臓がんなどの消化器のがんを中心に患者さんを受け入れています。入院時より、肺機能検査・基礎代謝測定・嚥下造影検査などを行い、これにより必要な栄養量や運動負荷量を決定してリハビリを行っていきます。がんリハビリテーションは、術前・術後で行っており、術前は、身体機能維持・栄養管理を行い、術後の合併症リスクを軽減させ、術後は、廃用症候群による低下した身体機能の改善やADLの改善を目的に介入しています。現在、がんリハ研修修了者が12名おり、がん患者さんの嚥下機能・栄養手技の獲得・身体機能向上に対応できる体制が整っています。さらに、多職種によるカンファレンスや勉強会も行い、さらなる受け入れ強化の体制をとっています。



●腎臓リハビリテーション

当院は120床の透析ベッドを有する透析センターで約360名の血液透析を行っています。入院・外来関係なく必要な方には、リハビリテーションの提供を行っています。血液透析患者さんは、健常者と比較し筋肉量・筋力の低下に伴うサルコペニア・フレイルの状態になりやすく、

運動療法が重要になってきます。当院でも近年、注目されている腎臓リハビリテーションを行っており、血液透析の前後で病室やリハビリテーションセンターにて実施しています。また、血液透析患者さんの問題として透析アミロイドーシスがあります。これらは、骨・関節にアミロイドーシスが沈着し変形や運動障害を起こします。透析アミロイドーシスについても関節ファシリテーションを実施していきます。関節の変形や運動障害が起こらないように予防・軽減出来るようにしています。さらに多職種連携として栄養状態が良くない透析患者さんには栄養管理部と連携していき、リハビリテーション栄養を実施していく予定です。また、平成29年4月より私たちは、心臓リハビリテーションの開始を予定しています。現在、施設基準を含めたデモンストレーションや循環器医師との心リハリカンファレンスを実施していきながら準備を進めています。また、同じ医療法人のしげい病院との連携を強化していき、心肺運動負荷試験（cardiopulmonary exercise test; CPX）についても、しげい病院で評価を行えるようになっています。



医療の場で、子ども達の豊かなところとからだを育てます

—小児療育センター—

重井医学研究所附属病院小児療育センターの前身である小児言語療育外来は、平成14年4月に小児科医1名、言語聴覚士1名だけの小さな船出でした。



「分断の危機にある個をつなぎ合わせ、相互信頼関係の再構築で、子ども達に生きた言葉を育てる」のコンセプトを元に立ち上がり、平成16年1月には、小児療育センターとして新生されました。現在は小児科医4名、言語聴覚士13名、作業療法士4名、心理士4名とスタッフ数も増え、乳幼児期から長期にわたる神経発達障害児の療育・支援専門機関として、地域に貢献しております。

現在では、年間に約500名の新規患者さんと、1日平均約90名の方々が、診療、療育、検査等で通院されています。地域貢献を目指しておりますが、今では、隣県各地からの受診者も増加しています。

当療育センターの特徴として、小児科医を中心として、発達の偏りがある子を心身ともにフォローしていること、また多岐に渡るスタッフによるきめ細やかな対応をしていることと考えています。

現状では、新規患者さんが多く、初診時の発達検査、療育の開始などかなりお待たせしており、大変心苦しいのですが、当療育センターの理念でもある「子ども達の豊かなところとからだを育てる」という大きな目標に向かって、これからも精進してまいります。子ども達、またそのご家族の方も安心して通える施設を目指して努力してまいりますので、ご支援のほどよろしく願いいたします。

重井医学研究所附属病院 小児療育センター
小児科部長 今村 昌司

当院で行っている療育の紹介

●言語聴覚療法 (ST)

○言語聴覚療法とは

ST (Speech Language Hearing Therapy) とは知的発達の遅れ、対人関係のつまづき、脳の損傷などにより、言語機能の発達が遅れているお子さんに対し、「ことばやコミュニケーションに関心を持たせる」、「語彙や文法、文字の習得を促す」などの訓練・指導を行い、「ことばの獲得」の支援を行うことをいいます。



○具体的な困りや苦手さ

- ことばが遅い (ことばが少ない)。
- 発音が未熟だったり、うまく言えない音がある。
- 話したいことをきちんと話せない、ことばにできない。
- ことばを正確に理解することが難しい。
- 吃音がある。

これらをはじめとし、様々なことばの苦手さを抱えたお子さんが当院でSTを行っていらっしゃいます。

●作業療法 (OT)

はじめに、作業【Occupation】とは遊び・日常生活での動作 (食事・入浴・排泄など)・仕事・余暇活動…身の回りすべての動作を示します。



OTの対象となるのは、発達がゆっくり・運動や手先を使う事が苦手・落ち着きがなく集中して取り組めない・日

常生活での支援や介助量を減らしたい、などの困りがあるお子さんです。ご家族には、ご家庭で出来ることの提案やアドバイスなどを行っています。私たち作業療法士はまず専門的な評価を行い、対象になるお子さんに必要とされる作業を探し、治療として用います。一見、遊んでいるだけ…に見えがちですが、その裏にはとても奥深い治療的な根拠が隠れています。

“苦手なことでも少しだけ方法を変えると出来た!” “出来ない原因は意外なことだった!” “楽しいことだと黙々と頑張れた!” …楽しく苦手を克服し発達を促す、それがOTだからこそ出来ることです。

●心理面接

当院の心理面接では、心理士がお子さんやご家族からじっくりお話を伺いながら、一緒に問題を整理していったり、解決の糸口を探していったりします。時には、イライラや不安といった感情の対処方法を学んでもらったり、心理士の視点からアドバイスを行ったりもします。また、お話が苦手なお子さんの中には、遊びを通して関わることもあります。



●グループ療育

当院小児療育センターでは、個別療育の他に、言語聴覚士と作業療法士および心理士 (以下「セラピスト」) がそれぞれの専門性を活かしてグループ療育を行っています。

“子どもは集団の中で育つ” という観点のもと、日常の集団生活の中では学びきれないお子さんに対して、セラピストと1対1の関係を確保し、様々な活動や遊びを通してセラピストが子ども同士の関わりの橋渡し役となっています。

以下のような困りのあるお子さんがグループ療育を行っています。

- 落ち着きがない (集団生活の中で逸脱した行動がある)
 - 先生の話が聞けない (一斉指示に従えない)
 - お話をするのが苦手 (発表ができない、お友達と上手に会話ができない)
 - お友達と一緒に遊べない (1人遊びが多い、ルールのある遊びに参加できない)
 - マイペース (周囲の状況に自分を合わせられない)
- 未就学児グループと小学生グループがあり、年齢・性別・特性等を考慮しグループ分けを行っています。

次のページに続く▶

医療の場で、子ども達の豊かなこころとからだを育てます 小児療育センター

特集
2

初めて療育を受けられる方へ

療育は完全予約制です。
お電話にて予約を受け付けています。

予約から療育開始するまでの流れについて

1 予約

TEL：086-282-6001（直通）
電話の際、「療育の初診予約」の旨をお伝えください。
電話対応時間
[曜日] 月・火・水・金・土
[時間] 9：00～12：00 または 13：00～16：30
※電話回線が混雑している場合、お手数ですが時間を置いておかけ直してください。

- 電話での質問事項（10～15分程度かかります）
 - ・受診理由（困りや心配な点）
 - ・他院の受診履歴（他機関での発達検査履歴を含む）
 - ・お子さんの名前
 - ・生年月日・年齢・学年
 - ・連絡先
 - ・希望の予約日 など
- 初診の予約
 - ・初診面談…小児科医師が対応します。
※当日検査等は、出来かねます。
 - ・新患曜日を火曜日・水曜日の午前中に設定しています。（日にちのみのご予約となります。時間は指定できません。）

2 初診当日

- お持ちいただくもの
 - ・保険証
 - ・親子手帳
 - ・問診票
 - ・園・学校生活のレポート
 - ・乳幼児受給証（お持ちの方のみ）
 - ・紹介状（お持ちの方のみ）
 - ・過去の発達検査結果（お持ちの方のみ）
- 当日の流れ
 - ・受付は8：30～10：30の間をお願いします。
 - ・1時間以上お待ち頂く場合がございます。



3 発達検査の日から診断後



4 診断書やデイサービス意見書（園や学校への提出用）を承っています。

ご希望の場合、初診予約の電話にて、必ずお伝えください。
診断書は、新患の場合、発達検査の結果をお伝える日にお渡しします。
※療育を継続中の方は、担当者へご相談ください
保険外負担に関する自費料金を下記の通り定めています。（各1通、消費税込み）
○診断書（園・学校に提出用）…………… ¥1,080
○障害児・発達支援・放課後等
デイサービス意見書…………… ¥1,080

NEWS 1 2年目を迎えました 病棟の職員として

3月6日、看護部の教育研修会が開かれ、この4月で入職2年目を迎える看護職員たちが、各病棟の責任者や教育担当者の前で一年間を振り返ると共に2年目に向けての抱負を述べました。時には、迷うことや辛いこともあったそうです。しかし、それらを乗り越え1年前と比べてどの職員も成長の跡がうかがえました。

また、4月1日には平成29年度の新人職員が入職しました。私たちは、皆さんが安心して療養していただけるよう、新人の指導にも取り組んでまいります。もし、指導中にお気づきのことがありましたら、ご遠慮なくご指摘ください。



これからの抱負を述べる看護職員 病棟のスタッフと一緒に記念撮影

NEWS 2 平成28年度の 公開講座が終了

3月11日に開催された「世界腎臓デー記念講座」をもちまして、「平成28年度公開講座 すこやかに生きるために その32」が終了いたしました。たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。

平成28年度の公開講座は、従来の公開講座と少し趣を変えて、当院の診療の機能と最新の健康情報を結びつけてお話したり、当院の「健康づくり教室」や栄養展示会と共同で開催をしたりしました。はじめは、開催様式の変更に戸惑われた方もいらっしゃったようでしたが、多くの方には好評のようでした。

平成29年度の公開講座は、ただ今企画中です。内容が決まり次第ホームページやポスターなどでお知らせいたします。どうぞこの公開講座から得た情報をいかして、皆さんの健康の増進にお役立てください。



大森医師による講演 講座終了後に行うミニ健康診断

NEWS 3 慢性腎臓病予防のための展示会を開催

3月9日の世界腎臓デーにちなみ同日各地で記念行事が行われたようです。当院では、3月10日から3月18日まで外来棟1階エレベーター前のフロアで「慢性腎臓病予防のための展示会」を開催しました。

今回の展示会は、「あなたの腎臓を守るために～賢く減塩!防ごうメタボ!」をテーマにして、減塩の調理方法を中心に展示しました。また、3月10日と11日は無料で健康測定や栄養相談などを行いました。たくさんの方にお越しいただき、皆さんの慢性腎臓病に対する関心の高さを改めてうかがい知ることができました。

次回の展示会は、6月に「生活習慣病予防のための展示会」を開催する予定です。詳細は、後日ご案内いたします。たくさんのご参加をお待ちしております。



体脂肪の測定や運動能力のチェック



管理栄養士による栄養相談

